〔東京桑野会〕令和8年度（2026年度）東京桑野会 定期総会・懇親会 開催報告

東京桑野会副幹事長
青木雄司（百十三期）

1 はじめに

令和8年（2026年）6月27日（土曜日）16：00より、首都圏に在住・在勤する同窓生が集う「東京桑野会令和8年度定期総会」および「懇親会」が盛大に開催された。当日はあいにく台風7号と8号が関東地方へダブル接近し、公共交通機関が運休するやも……という大荒れな天候が予想されたが、結果的に暴風雨や運休もほとんどなく、影響は限定的であった。

2 開催概要

日時　2026年6月27日（土）16：00開始

会場　東京都千代田区一ツ橋 日本教育会館9階「喜山倶楽部」（宴会場9階「平安」）

出席者数

総勢84名（来賓14名、学生会員1名、一般会員69名［内、女子会員1名］）

主なご来賓

笠間　善裕氏（安積桑野会会長・84期）

椎根　健雄氏（郡山市長・108期）

森下陽一郎氏（母校安積高校校長）

橋本　文典氏（安積歴史博物館館長）

東京花かつみ会副会長2名ほか

3 定期総会の実施内容と決議事項

定刻の16：00より、青木雄司副幹事長（113期）の総合司会のもとで定期総会が開会された。冒頭、宗像孝副会長（98期）より開会の挨拶の後、来賓紹介、物故会員への黙祷が捧げられ、議事へと移行した。

本総会の議長には佐藤重夫副会長（79期）が選出された。まず、本年は当会会長の改選期であり、浅川章会長（76期）が推薦され、満場一致で可決された。浅川会長からは今期から導入した「活動協賛金」をはじめとした同窓会運営への協力のお願いと、喫緊の課題である若手会員への獲得に関して積極的に取り組んでいく旨が述べられた。続いて、前年度の事業報告・決算報告、および新年度の事業計画案・予算案が上程された。いずれの議案も石井俊一幹事長（82期）の丁寧な説明のもとで滞りなく審議され、承認・可決された。



4 特別講演会の開催

総会議事終了後、特別講演会が開催された。今年は講師として、特殊法人・福島国際研究教育機構《通称「F-REI」》の副分野長（エネルギー）を務める秋田調博士（86期）をお迎えした。

講演では、最先端の研究拠点であるF-REIの役割や、現在の日本のエネルギー政策、脱炭素社会の実現に向けた技術的アプローチなどについて、専門的な見地から非常に分か

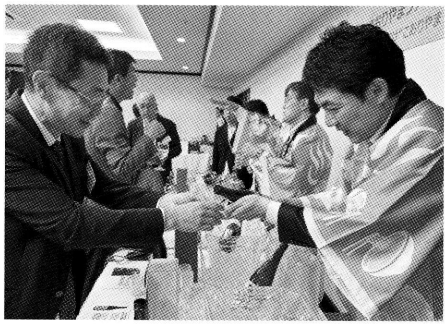


りやすく解説していただいた。同窓生が国家規模の最先端プロジェクトの第一線で活躍している姿は参加者一同に大きな刺激を与え、講演後の質疑応答で時間がオーバーするなど会員一同は秋田博士の熱弁に真剣な面持ちで聞き入っていた。最後に鹿田征歳副会長（102期）の閉会の辞をもって総会は無事に幕を閉じた。

5　懇親会の様子

講演会の終了後、参加者は隣接する懇親会場へと移動した。小林伸久副会長（84期）の司会のもと、笠間善裕安積桑野会会長（84期）、森下陽一郎安積中学校・高等学校校長の両来賓からの挨拶に続き、最年長出席者の荒木盛次氏（70期）の乾杯の発声とともに懇親会が開宴した。また、橋本文典安積歴史博物館館長（84期）、毛塚貴子氏東京花かつみ会副会長の両来賓からの挨拶により会に華やかさが足された。

本年度の懇親会の目玉は、なんといっても椎根健雄郡山市長（108期）肝煎りの「お届けこおりやま」である。郡山市役所職員（奇しくも全員安積卒）により、地元の銘酒やワイン、ウイスキーやクラフトビールが試飲できる特設コーナーが設置され、郡山市の魅力が紹介された。椎根市長が直々にお酌をされる一幕もあり、東京にいながらにして故郷の味が満喫できるこの試みは大盛況で、多くの会員が舌鼓を打った。さらに、デザートとして郡山のソウルフードである「クリームボックス」もふるまわれ、あらためて郡山への想いを強めた。また、郡山の最新情報等をメールマガジンでお届けする「こおりやまファンクラブ」にも多数の入会があったとのことで、当会と郡山市の双方がWin-Winとなる結果となった。



会場には、今春、旭日大綬章を受章された82期の根本匠元代議士をはじめとする先輩方から、現役の学生、女性会員まで、幅広い世代が一堂に会した。年配会員は若手を歓迎し、若手は年配会員を敬い、各テーブルでは話題の尽きない会話がなされ、世代の枠を超えた同窓の友好の輪が四方に広がる光景が見られた。

宴の終盤には、大矢真弘副会長（元應援團団長・88期）、113期の辻村次郎氏（元應援團）、さらには新旧対決を思わせる133期川島新菜氏（元應援團長）のリードのもと、現役さながらの力強い校歌と應援歌斉唱が行われた。熱気が最高潮に達する中、初の試みとして参加者84名全員での集合写真撮影が行われ、最後は82期の藤田勝久氏による閉会の辞をもって、名残惜しくもお開きとなった。

6　総括と今後の展望

ダブル台風襲来という最悪の気象条件に見舞われたものの、結果として昨年と同等の84名の同窓生が集うこととなったのは喜ばしいことである。また、F-REIに関する講演、郡山市のアトラクションは、会員各位の知的好奇心・地域愛を刺激するものとなり、これからの東京桑野会のあり方を示す有意義な開催となった。

一方で、浅川会長の再任挨拶にあった通り、当会では若手と分類される100期以降の参加者が20名程度であったこと、女性会員も1名の参加であったことは、当会の今後の運営を鑑みるに由々しき事態である。親会の安積桑野会や他の支部での成功例、また他校の同窓会組織等の運営方法等を参考に、これまでにない改革を実行していくことで、当会を維持・発展していくことが求められる。